

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表 令和7年1月14日

法人名	有限会社 百樹	代表者	児玉 茂樹	法人・事業所の特徴	「感謝の心で共に働き生きる」を理念とし、利用者の希望に沿って住み慣れた地域での生活や人々との関係を維持・継続できるよう組み合わせ、24時間・365日の適切なサービスを提供し、また利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者個々人や家族の立場に立った利用者本位のサービスの提供に努めている。				
事業所名	小規模多機能ホーム なだの郷	管理者	安宿美奈子						

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	0人	5人	0人	0人	1人	0人	6人	0人	12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・職員によって技術、経験に差があり、各項目ごとの自己評価に表れているので、その差を埋められるよう勉強会や研修を行う。	・一部において自己評価のそれぞれの項目内容の職員の差が埋められていない。	・すぐにはなかなか改善できなことが多いですが、少しずつ取り組みの成果が出ていると思います。 ・自己実現の尊重の具体的な要望、目標を聞き出せていな。また、ミーティングで共有した内容が活かされていない。	・利用者の目標がなかなか聞き出せないため、逆に何ができるなくて困っていることを聞き出し、それを支援につなげて行く ・毎月のミーティングでは職員からの意見を聞く時間を設け、チーム力を向上させる ・施設内研修で制度について職員が学ぶ機会を設ける。
B. 事業所のしつらえ・環境	・四季折々の飾りつけは継続的に行い、利用者に季節感を味わってもらう。 ・居室においては職員はプライバシーの保護に努め、ホールや各居室の環境整備に努める。	・継続的な飾りつけで季節感味わっていただけている。 ・環境面では、温度管理や換気の徹底など感染予防に取り組めた。	・いつも季節感のある飾り等が窓越しに見え、外部からも落ち着きのある雰囲気、心遣いが感じられます。 ・利用者様、ご家族様だけでなく地域の方にも入りやすい雰囲気を工夫されている。	・事業所のサービス向上のためにも、働きやすい職場作りに努める。 ・事業所内外の居心地の良い快適な環境の整備に引き続き努める。 ・利用者の生活の場で仕事をさせて頂いているという気持ちを忘れず接遇を心掛け安心して過ごして頂ける環境づくりを目指す。

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
C. 事業所と地域のかかわり	・利用者が何を望んでいるのか、改めて利用者や家族に話を聞き、それにつながる地域資源の再確認を行う。	・利用者が何を望んでいるかを十分に把握できていないこともあるが、また地域資源の理解や活用についてもまだまだ不十分。 ・個別のサービスに対して対応できないところがあった。	・地域に認知症の方で警察のお世話に何度もなっている家を訪問されたり、他の地域に出向いて施設のPRをされ、今までにない積極的な取り組みはいいと思います。 ・道で出会った時にいつも声をかけていただき、地元に溶け込んでいると思います。	・利用者以外の近所の方にも、積極的な挨拶、機会があれば会話するように努め、地域からの相談や地域交流に繋げていく。 ・地域の人から相談されるような施設になるために何が必要か検討する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える仕組み	・コロナが落ち着き、地域のイベント、行事が再開されるとと思うので情報を得て積極的に参加したい。	・地域のイベントの情報を得ても、その時の施設の状況等で参加できないこともあった。	・地域との交流の場を持たれたり、地域のイベントにも専門職として参加してくださり、要望にも応えてくださっています。	・地域の活動計画を再度確認し、少数単位でも日常的に参加出来るようにする。 ・地域との関係性が保たれている利用者に関しては、関係が切れないようにする。
E. 運営推進会議を活かした取組み	・運営推進会議を通じて、地域で困っている人の事例や助けを求めている人の情報をもらい、支援につなげる。	・実際に地域で困っている人、心配な人の情報は個人情報の観点もあり中々把握が出来ていない。	・プライベートな内容を推進会議に出すのはおかしいのでは。地域の高齢者福祉の話をする場でもないのでないのではないでしょうか? ・事業所の現況をありのままに報告してくださるので、改善点、問題点が見える化しています。	・事業所の問題となっていること、重要なことをできるだけ具体的に分かりやすく説明する。 ・地域の中で困っている人について話があががれば事例検討と言う形で話し合い、対応方法等を蓄積する。 ・運営推進会議での情報は職員全体で共有する。
F. 事業所の防災・災害対策	・BCPの研修や訓練を定期的に行い、緊急時にスムーズに対応できるようにする。	・BCP策定について研修はこれまで2回実施した。定期的に火災訓練、津波を想定した高台への避難訓練、水害を想定した垂直避難訓練を行った。ただ、全職員ではなく一部の職員だけなので、定期的に全職員が体験しておく必要性を感じた。	・防災意識が高まる中で、地域の防災訓練の参加や取り組みを通し、頼りに出来る事業所になってください。	・BCP（事業継続計画）に基づき、防災・災害対策活動を実施していく。 その内容や結果を職員全体に周知できるよう取り組み、職員全体で災・災害対策に対する意識と知識の向上を図っていく。

(別紙2-4)